

1998年出土の木簡



富山・柄谷 南 遺跡

栃谷 南

- | | | |
|---|---------------|----------------------|
| 1 | 所在地 | 富山市板谷 |
| 2 | 調査期間 | 一九九八年（平10）四月～一九九九年一月 |
| 3 | 発掘機関 | 富山市教育委員会 |
| 4 | 調査担当者 | 鹿島昌也・原田幸子 |
| 5 | 遺跡の種類 | 生産遺跡・集落跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 八世紀、近世 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

遺跡は富山市の西部、呉羽山丘陵と射水丘陵に挟まれた標高一五mの水田地帯のほぼ中央部に立地する。圃場整備前の地形を見る

7 6 遺跡の年代 八世紀、近世
遺跡及び木簡出土遺構の概要

と、南北に旧河道かと思
れる谷筋が数条見える。

個人住宅建設に先立ち、

六〇〇 m^2 を対象に発掘調査を行なつたところ、谷の西

側の緩斜面に二基の瓦陶兼業窯を検出した。灰原からは、谷を埋める大量の須恵器や瓦類が出土した。谷の

8 木簡の新文・内容

(1) 五二、五六○焼印カ

126×52×11 011

木簡の上半部に漢数字が表記されており、墨痕は明瞭である。その下部左寄りに焼印のようなものが押されている。また、木簡のほぼ中央部に、鉄釘のようなものが表面から打ち込まれて残存している。漢数字の字体が新しく、近世以降のものと考えられる。

東には、須恵器や瓦の粘土を採つた採掘穴を多数検出し、下部に横板井籠組の枠を有する井戸も一基検出した。

注目されるのは、二〇〇点を越す単弁八葉蓮華文軒丸瓦が、包含層及び灰原から出土したことである。あわせて包含層中から、「対葉花文」を透彫りした木製品が一点、及び鐘状の銅製品が一点出土するなど、古代仏教に関連する遺物が出土し、近隣に関連する施設の存在を窺わせる。軒丸瓦の供給先は、現在のところ判明していない。

木簡は、二基の瓦陶兼業窯のうち、北側の窯の上に堆積した灰原層を掘り込む形で検出した柱穴の抜取り底部から、水平な状態で出土した。柱穴の掘形からは、軒丸瓦の瓦当も一点出土している。遺

跡内の遺物包含層からは、須恵器・土師器・瓦類に混じり、近世の遺物も若干出土している。このため木簡は、窯業生産が終了した後の建物に伴う可能性が高い。

なお、今回の報告を行なうにあたり、富山大学の鈴木景一氏のご教示を得た。

9 関係文献

富山市教育委員会『柄谷南遺跡』(富山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ)

(一九九九年)

(鹿島昌也)

埋蔵文化財写真技術研究会編集・発行
『埋文写真研究』第一〇号

文化財写真の技術・情報などに関する記事を載せ、文化財調査に携わる人必携のマニュアル書である『埋文写真研究』の最新号が刊行された。

内容は川瀬敏雄「原板のサイズと撮影状態の違いによるデジタル画像の評価について」、井上直夫「光質の違い」、村井伸也・幸明綾子・牛嶋茂「遺跡撮影 その四 断面(セクション)を撮る」など多数。

B5版 一四八頁 カラー図版多数 一九九九年七月刊

価格 三、五〇〇円

送料 四冊まで五〇〇円、五~一〇冊まで一、〇〇〇円、

一冊以上は無料

三号以前は品切れ

連絡先

埋蔵文化財写真技術研究会(会長 佃 幹雄)

〒六三〇-八五七七 奈良市二条町二丁目九一

奈良国立文化財研究所内

電話〇七四二-三四一三九三一

郵便振替

〇一〇五〇-九九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会

